

【別紙様式 I】 令和4年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立小鮎中学校

厚木市教育委員会の基本目標	1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
	2 自他の命や豊かな感性を大切にし、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
	3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

校長名 大貫 博

学校教育目標	学校経営の方針
学び続ける力と しなやかでたくましい 心と体の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的・対話的で深い学びの推進 ○学級経営及び道徳教育の充実 ○PDCAサイクルを定着させた教育活動の定着 ○小中一貫教育の推進 ○開かれた学校づくりと家庭・地域との連携

今年度の重点目標

- (1)教育課程推進部
 - ・新学習指導要領を踏まえた本校の特色ある教育課程の編成を行う。
 - ・プランニングシートの活用、及びPDCAサイクルを活用し、評価を定着させる。
 - ・小中一貫教育9年間の指導計画を確立し、小中のつなぎを円滑にする。
- (2)学習指導部
 - ・主体的・対話的で深い学びの授業を展開する。
 - ・評価の観点の変更に伴い、各教科で事前の研修・準備を行い、目標に準拠した評価が適切に行われるようにする。
 - ・ユニバーサルデザインを意識した授業を展開する。めあて・まとめ・振り返りの定着。
 - ・ICTを活用した授業の工夫を行う。GIGAスクールによって整備されたタブレットの活用を工夫する。
 - ・小中一貫教育を意識した小中の学習のつながりを踏まえた学習指導を行う。
 - ・授業力向上に向けた校内研究を行う。
 - ・人権教育・道徳教育の充実を図る。
- (3)生き方指導部
 - ・キャリア教育を通して、望ましい職業観を育むとともに自己の将来について目標を持ち、自分に合った進路選択ができるようにする。
 - ・学級活動・生徒会活動・部活動の活性化を図り、自治力向上に努める。
 - ・キャリアパスポートの作成を行う。
- (4)保健・安全指導部
 - ・自己の心身の発達や心の健康について理解し、生涯を通じて健康の保持増進を目指す生徒を育てる。
 - ・日常の清掃活動に目的意識をもって一生懸命に取り組む生徒を育てる。
 - ・地域との連携を図り、ボランティア活動を通して地域の一員として奉仕の心を持つ生徒を育てる。
 - ・安全・防災教育を通して、災害に対する備え、災害時の適切な行動、不審者対応、交通事故防止など、適切な対応をとることができる生徒を育てる。
 - ・新型コロナウイルス感染予防対策を厚木市の方針に基づいて行う。
- (5)生徒指導部
 - ・3年間を見通した生徒指導に当たる。
 - ・明るくあいさつができ、礼儀正しく規範意識の高い生徒を育てる。
 - ・生徒理解に努め、個に応じた適切な指導を行う。
 - ・いじめや暴力をなくすための様々な取り組みを行う。
 - ・支援の必要な生徒については、個別支援計画に基づいた教育活動の展開を行う。
- (6)行事プロジェクト
 - ・体育的、文化的、旅行的など、様々な行動を通して、集団への所属感や連帯感を深めさせる。
 - ・行事に取り組むうえで、個人や集団の課題を見出し解決できる力を養う。

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
学校に行くのが楽しいと感じている。	1・2・3	教育相談や日頃からの生徒観察、学級活動等を通して、生徒同士や職員との関係づくりや集団づくりを進めるとともに、分かりやすい授業づくりを進めた。	生徒の様子を見取り、トラブルや悩み等を早期に発見することができ、望ましい人間関係や集団づくりが進められた。また、クロムブックを有効活用することで、分かりやすい授業づくりを進めることができ、生徒たちの学習理解を深め、学習意欲を高めることができた。	チャンス相談の充実と情報共有を進め、個別の支援体制の確立を図る。また、個別に学習支援を進め、「できた」「分かった」を実感させる授業改善を進める。
全体的に落ち着いた学校生活が送られている。	1・2・3	学級活動や生徒会活動、部活動や学校行事等、学校生活全般にわたり、生徒が主体となった活動を展開した。	感染症予防対策をとりながら、体育部門や文化部門の練習に、3年生を中心として規律を守って積極的に取り組むことができた。文化部門の合唱については、クラス合唱を行うことができた。清掃活動にも責任を持って取り組むことができた。	感染症予防対策を徹底することで、少しずつ学校行事を還元させ、生徒が自主的に活動できる場を増やしていく。そして、様々な活動の中でみられる生徒の良いところを積極的に評価し、自己肯定感を高めていく。
様々な活動やふれあいを通して、成長が見られる。	1・2・3	生徒とPTAとのコミュニケーション会や学校(学年)行事等を通して、学校(生徒・職員)・保護者・地域との連携を図った。	PTAの方々に学校行事の受付や感染症予防対策等の協力を頂くことで、昨年度以上に保護者が来校しやすい環境を整えることができた。その結果、多くの保護者が体育部門や合唱部門を参観することができた。	今年度と同様、学校とPTAが綿密に連携し、コロナ禍でもできる取り組みを増やしていく。
日常生活や行事を通して、生徒に活躍の場や認め合う場を設定し、自信を持たせている。	1・2・3	学級活動や合唱活動、体育部門の練習などの内容を、生徒と職員が事前に検討することで、生徒が自信をもって活動や行事運営を行うことができた。	学級活動や学校行事を中心に、PDCAサイクルに従った活動評価を実施し、振り返りと次段階への展望を確認することができた。また、生徒相互の認め合いができる場面を作り、望ましい集団づくりが進められた。	行事担当や学級経営担当、生徒会担当と連携し、より具体的な学校生活の中で、認め合える場面の振り返りを進めていく。
「自治力の向上」を目標に、生徒主体の活動を充実させて集団生活を向上させている。	1・2・3	生徒自らが学校生活を自治できるよう、合唱活動や行事の運営、日常の生徒活動を充実させた。	様々な活動に対して、PDCAサイクルに従った活動評価を実施し、振り返りと次段階への展望を確認することができた。	生徒会担当や学級経営担当とも連携し、計画的に学校行事、及び学校生活の振り返りを進めていく。
好きな授業や楽しみに思える授業がある。	1	各学期ごとの校内授業研究の実施や、学カステップアップ支援員との連携等を通して、より分かりやすい授業展開を心掛けた。また、クロムブックの機能を活用した分かりやすい授業も実施した。	授業研究や教科部会等で情報交換や意見交換をすることで、授業改善を指導の充実を図ることができた。また、日々の授業の中で学カステップアップ支援員からの助言やアシストを通して、より味わいのある授業展開をすることができた。また、ICTアドバイザーの協力もあり、クロムブックを有効活用できる職員も増えた。	教科指導におけるPDCAサイクルとユニバーサルデザインを取り入れた指導を定着させるため、積極的に教科部会を開催し、授業改善を図る。また、学カステップアップ支援員のより有効な支援方法についても検討する。ICTアドバイザーの指導のもと、活用できる職員をより一層増やしていく。
生徒の興味を高め、考える力や発表する力を伸ばすよう授業を工夫している。	1	各学期ごとの校内授業研究の実施し、主体的・対話的で深い学びについての授業力向上を図った。	主体的・対話的で深い学びの実現と、ユニバーサルデザインを取り入れた授業展開に向けて授業研究を進めたことにより、授業力の向上や授業改善が図られた。	次年度は、教科ごとに授業研究を実施し、各教科で授業力向上・授業改善を図る。また、クロムブックの機能を生かした意見交換や発表の方法を習熟させる。
あいさつ・マナー・きまりなどの基本的な生活習慣や規範意識を身に付けている。	2・3	生徒会本部や生活委員会、部長会を中心として、あいさつ運動の改善を試みた。	あいさつの推進については、検温チェックの関係で朝は取り組みないところもあったが、小中の連携した課題として、授業や学級活動の中で生徒と職員が一体となって改善に努めた。部活の朝練習はなかったが、遅刻する生徒が増えることもなく、落ち着いた雰囲気ですべてスタートさせることができた。また、生徒会本部が、現状分析のために「生徒の挨拶に関する意識調査」を実施した。	あいさつに関しては、意識調査に基づいた取り組みを、生徒会本部が中心となって検討する。検討した取り組みを、生徒と職員が一体となって推進する。
どの生徒も大切に、困りごとなどへの対応が早く、信頼感を持っている。	2・3	職員会議や学年会、生徒指導・支援会議、ケース会議等を定期的に開催し、情報交換や情報共有を図り、指導・支援の充実を図った。	校内・校外の指導・支援体制として、情報交換やケース会議を実施し、情報共有や指導・支援の充実を図ることができ、家庭とも連携が図れた。学校評価でも昨年より数値が向上している。	今年度同様、指導部会や支援会議、ケース会議を時間割や年間計画の中に組み入れ、定期的に開催していく。

様々なたよりやホームページ、緊急メール等で、教育活動の主旨や願い、生徒の様子を伝えている。	2・3	学校だより・学年だよりを定期的に発行するとともに、学校HPを利用して学校の取り組みや生徒の活動の様子をタイムリーに発信した。	学校だより・学年だよりを定期的に発行することができ、学校の取り組みや生徒の様子を地域へ広報することができた。学校HPについては、管理職以外の職員も記事を作成するよう努めた。	学校だよりや学年だよりについては定期的に発行しつつ、次年度も学校でのささやかな出来事や普段の様子等を学校HPで積極的に発信できるよう職員に働きかける。
家庭で学校での出来事や友達の話をしている。	2・3	家庭訪問や三者面談、教育相談等で情報を共有し、家庭との連携を図った。また、学級通信等で家庭で共有できる話題づくりも行った。	家庭訪問や三者面談、学期始めの教育相談や学級通信等を通して、保護者と情報共有をすることができた。また、必要に応じて個々の保護者とも適宜対応し、連携が図れた。	定期的な面談だけに偏ることなく、些細な生徒の変容(良い面・心配な面を含む)について、家庭と積極的な連携を図る。
家庭での約束や決めたことを守っている。	3	日々の学級活動や道徳教育等を通して、より良い生き方や、より良い社会を築いていくために大切なことを確認した。	今年度も評価が改善しているのは、学校生活が落ち着きを取り戻したことで、学級活動や道徳教育の成果が表れてきたといえる。	次年度も毎日の学校生活や道徳の授業の中で、人としての生き方やより良い社会の実現に向けての問題提起を継続していく。その成果や困り感等の情報共有を図る。
地域全体で子どもを育てようとする気運があり、子供は地域の人に親しみを感じている。	3	地域ボランティアは、徐々に再開されたが、生徒の積極的な参加は見られなかった。今後地域との連携を深めて、生徒が参加して楽しいと思える活動に繋げたい。	地域ボランティアには参加できなかったが、清掃ボランティアをしているPTAの姿を見て、保護者や地域の方への感謝の気持ちを持つことができた。	コロナ感染症予防対策をしつつ、地域行事に自発的に参加できる体制を作る。また、コミュニティスクール制度の活性化も図る。
コロナウィルス感染症等の感染予防対策を行い、授業や学校行事、部活動等を行っている。	3	毎朝の体温チェックと入室前のアルコール消毒、授業中の換気と加湿、無言給食、放課後の消毒、学校行事のときのソーシャルディスタンスと保護者の入場制限等を行った。	毎朝・毎日の感染症予防対策の成果として、例年流行している季節性インフルエンザに感染する生徒は今年もいなかった。体育部門や文化部門での感染症対策も、PTAの協力を得て滞りなく運営することができた。	きちんと対策を講じることで、感染症を大きく予防できることが確認できた。次年度も油断することなく感染症予防対策を徹底し、対策を講じることで取り組める活動を模索していく。
毎日基本的な感染症予防をしながら生活できている。	3	学年職員と生徒が連携し、手洗いや手指消毒等を徹底することで「うつさない・もらわない」行動を徹底した。	日々の検温や手洗い、マスク、換気・消毒作業等は、新しい生活スタイルとして生徒たちにも浸透した。アンケートの評価は、今年度も前向きなものがほぼ100%を占めている。	「うつさない・もらわない」ための対策は浸透しているため、次年度も意識を高く持って対応する。

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

学校運営協議会において、校内の各グループ・分掌からの評価反省を受け、次のような評価を受けた。

- ・学力向上を地域の課題として、生徒は「基礎学力の定着」、職員は「授業力の向上」を進めていきたい。多忙な職員に対して少しでも力になれるよう、豊富にいる地域の人材を活用し、学校と地域が連携した学校づくりを推進していきたい。
- ・PTAとして学校と連携し、生徒・職員・保護者が三位一体となつてともに学校づくりを進めていきたい。
- ・電子黒板やタブレットなどのITC機器を有効に活用した教育活動を推進していきたい。

今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針

- ・主体的、対話的で深い学びの推進については、学期ごとの研究授業を通して研修を深めることができた。次年度は研究授業を各教科で実施することで、教科の専門性を生かしたより深い展開が期待できる。
- ・学級経営については、職員会議ごとに啓発資料が提示され、各担任のスキルアップを図ることができた。これからもチーム小鮎として取り組んでいきたい。
- ・PDCAサイクルは学習面だけでなく、生徒会活動にも有効活用することができた。
- ・新学習指導要領に即した評価については、教科によって不十分なところがあったため、年度末の研修会を通して理解を深め、次年度の教育活動に反映させる。
- ・PTAに学校の教育活動を積極的にサポートして頂いており、これからも地域や家庭との良好な連携を図っていきたい。